

家庭教育のあり方 考えてみませんか？

中学生に
たくましい
心と体を
育むために

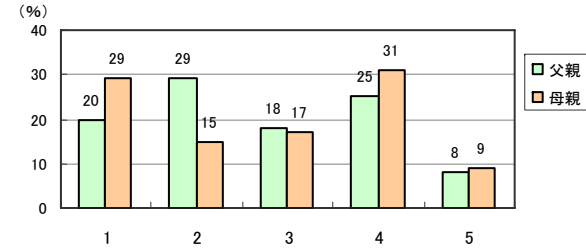
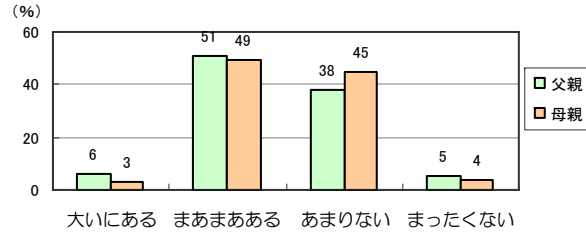
福岡県教育委員会では、昭和57年度、平成5年度、平成10年度、平成14年度に続いて、平成19年度に中学生とその保護者を対象に生活や養育態度等の実態調査（質問総数38項目）を実施し、2,102家庭から回答を得ました。この調査結果をもとにダイジェスト版を作成しましたので、これからの家庭教育のあり方を探るヒントにしてください。

編集／発行：福岡県立社会教育総合センター
糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
Tel：092-947-3511
Fax：092-947-8029

しつけへの自信

半数程度の親が「ある」と回答
「ない」が増加傾向

◆あなたは、しつけに自信がありますか。しつけがうまくいかないと感じるのはどのような点ですか。



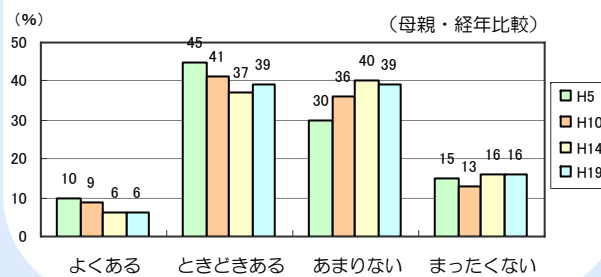
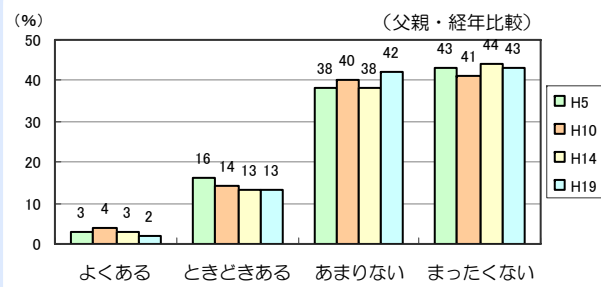
- 気分や感情に左右され、しつけの態度にムラがある
- 仕事が忙しく、しつけにじっくりかかわる余裕がない
- 価値観の多様化により、しつけの基準がわかりにくい
- 成長とともに、子どもの気持ちがあつかみにくくなっている
- その他

半数程度の親が「ある」と回答していますが、経年で変化をみると「あまりない」「まったくない」が増加傾向にあります。その理由としては、父親が「仕事で忙しく余裕がない」ことを、母親が「成長とともに子どもの気持ちがあつかみにくい」ことを1番に挙げています。

しつけの学習

父母ともにしつけに関する学習参加は減少傾向

◆あなたは、しつけについて本を読んだり、テレビ番組をみたり、講演会に行ったりすることがありますか。



何らかの方法で学習すると回答したのは父親15%、母親45%で、母親の方が圧倒的に多いようです。経年で変化をみると、父母共にしつけに関する学習参加は減少傾向にあります。学年別では入学年度に関心が高い傾向にあります。また、有業・無業との関連はみられないようです。

これからの家庭教育で考えたいこと

1 子どもを「インターネット犯罪被害」から守りましょう

ケータイの所有率や利用時間が増え、犯罪に巻き込まれる危険性も高くなっています。子どもの利用状況を把握するとともに、家庭でルールを決めたりフィルタリングを設定するなど対策をたてましょう。

2 子どもに生活習慣・学習習慣を身に付けさせましょう

「早寝・早起き・朝ごはん」を合い言葉に、基本的な生活習慣の定着について関心が高まっています。しかし家庭学習は十分とはいえない状況があり、家庭での更なる習慣付けが求められています。

3 子どもにさまざまな体験活動をさせましょう

自尊感情が低い子どもや環境の変化に弱い子どもの増加が心配されています。人から感謝されたり、何かをやり遂げたりする経験を重ねることが必要であり、それを認め、ほめることが大切です。



4 子どもとのコミュニケーションの機会をもっと増やしましょう

成績や友だち、将来のことなど様々な悩みを抱える時期です。日ごろから家族での会話やふれ合いを大切に、相談しやすい雰囲気を作りましょう。

5 家庭での教育やしつけについて学び合いましょう

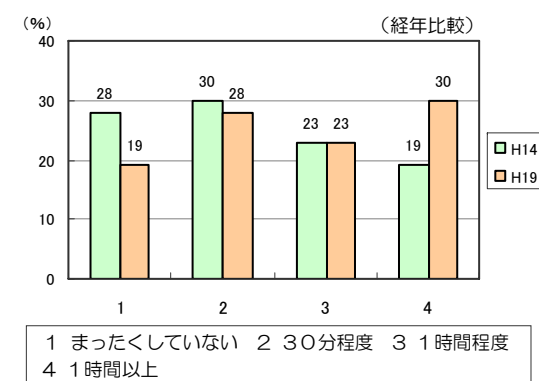
しつけに自信をもてない保護者が増加しています。PTAの研修会など様々な機会を活用して、保護者同士で学び合ったり、支え合ったりすることが大切です。

中学生の意識・行動

家庭での学習時間

家庭学習を「まったくして
いない」が約1割減少

◆あなたは家庭で平日どのくらい勉強していますか。

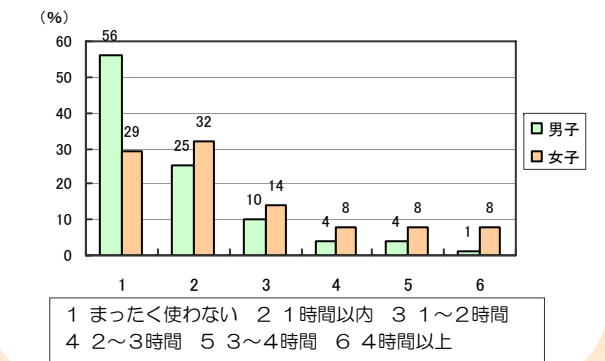


家庭学習を「まったくしてない」が全体の約2割ですが、前回(H14)と比較すると約1割減少し、「1時間以上」が約1割増加しています。

ケータイ利用時間

女子中学生の8%は1日
4時間以上利用

◆あなたは平日どのくらいケータイ（電話、メール、サイト、検索）を使いますか。



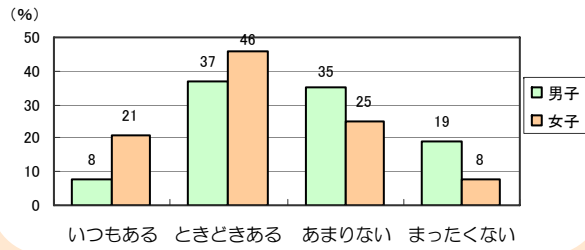
中学生男子の4割以上、女子の7割以上がケータイを利用して、学年が上がるほど、また、男子より女子の方が利用頻度が高く、女子中学生の8%は1日4時間以上利用すると回答しています。



自尊心

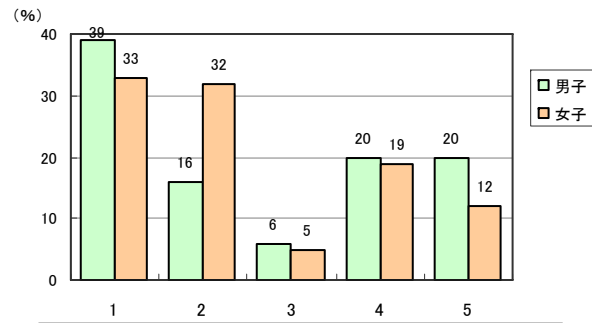
自分をダメな人間だと思う中学生が6割近く

◆あなたは自分がイヤになったり、ダメな人間だと思うことがありますか。



全体の6割近くが「ある」と回答しており、女子の方がかなり多いようです。男女ともに一番多い理由は「成績が上がらない時」であり、続いて、男子は「自分で決めたことをやり遂げられない時」と「スポーツや部活が上手にならない時」、女子は「友だちとうまくいかない時」を挙げています。

◆どんなときにそう思うのか、あてはまる大きな理由を選んでください。



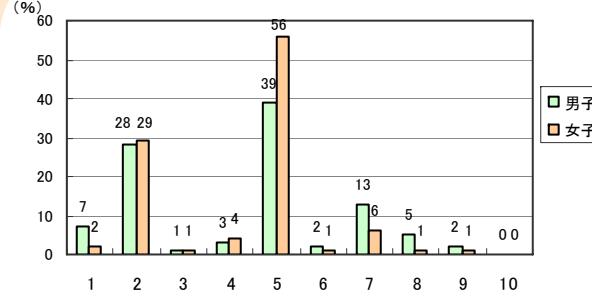
1 成績が上がらない時 2 友だちとうまくいかない時
3 親や先生とうまくいかない時 4 自分で決めたことをやり遂げられない時 5 スポーツや部活などが上手にならない時

相談相手

相談相手の1位は友だち、2位は母親、「相談しない」「相談相手がいない」という男子中学生が約2割

相談相手としては、男女とも1位は「友だち」ですが(男子39%、女子56%と開きが大きいようです。)、2位は「母」で、この順位は初回(S57)から変わりません。一方「誰にも相談しない」「相談する相手がいない」を合わせた割合は男子18%、女子7%であり、男子の方が悩みを一人で抱え込む傾向がうかがえます。

◆あなたは困っていることや悩みを誰に相談しますか。

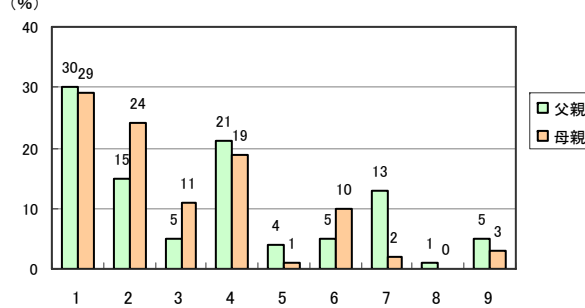


1 父 2 母 3 祖父・祖母 4 兄弟姉妹 5 友だち
6 先生 7 誰にも相談しない 8 相談する人がいない
9 特になし 10 その他

家族のイメージ

8割以上が肯定的なイメージ

◆あなたにとって父母はどのような存在ですか。



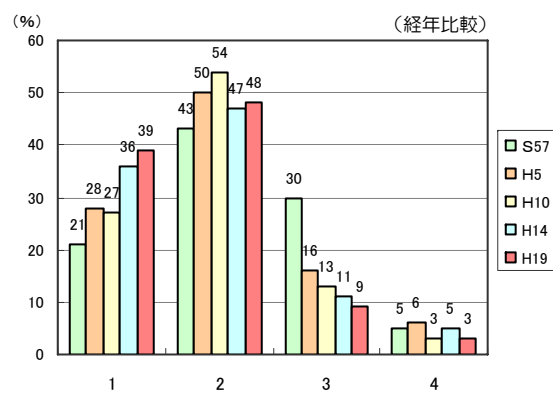
1 尊敬が出来る頼りになったりする人 2 理解のある人
3 友達のように親しみをもてる人 4 いろいろ教え指導してくれる人
5 自分勝手に無責任な人 6 口うるさい人 7 生活費をかせいでくれる人
8 放任で甘い人 9 その他

「尊敬できる、頼りになる」「理解がある」「親しみもてる」「教えてくれる」を合わせると、8割以上が肯定的なイメージを持っている姿がうかがえます。経年で変化をみると、「口うるさい人」が父母ともに減少傾向にあります。

家庭生活の満足度

約9割が満足

◆あなたは家庭生活に満足していますか。



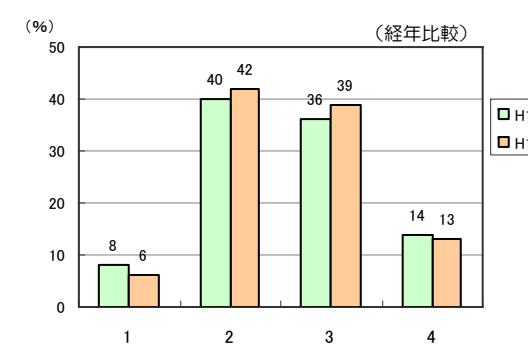
1 とても満足している 2 まあまあ満足している
3 あまり満足していない 4 まったく満足していない

全体では「とても」「まあまあ」を合わせて約9割が満足していると回答しています。特に「とても満足している」については、初回(S57)の調査と比べると約2倍に増加しています。

テレビやゲームのルール

ルールを決めている家庭と決めていない家庭は半々

◆あなたは、お子さんのテレビやゲームの時間について、何かルールを決めていますか。



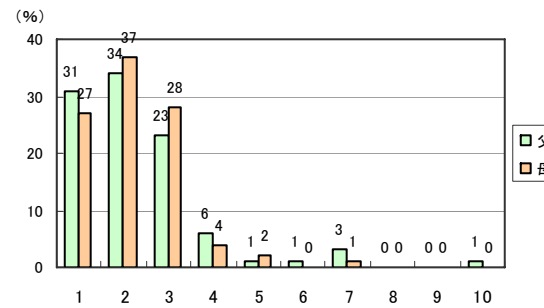
1 きちんとルールを決めている 2 だいたい決めていない
3 ほとんど決めていない 4 まったく決めていない

前回(H14)とほぼ同様、ルールを決めている家庭と決めていない家庭は半々です。子どもの家庭生活の実態との関連をみると、ルールを決めていない家庭の子どもほどテレビ漬け・ゲーム漬けになっているという状況がうかがえます。

子どもの将来像

1位は「あいさつや正しい言葉遣いができる子ども」

◆あなたは、お子さんにどんな子どもになってほしいと思っていますか。



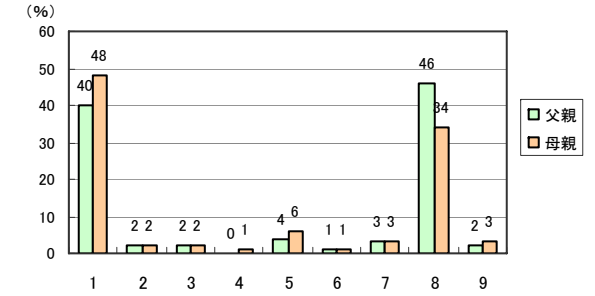
1 友達と仲良くできる子ども 2 あいさつや正しい言葉遣いができる子ども
3 思いやりのある子ども 4 自己主張や積極的な行動が出来る子ども
5 耐えることができる子ども 6 勉強が出来る子ども 7 健康で丈夫な子ども
8 人に好かれる子ども 9 健康な子ども 10 その他

前回(H14)は父母ともに「思いやりのある子ども」が1位でしたが、今回は「あいさつや正しい言葉遣いができる子ども」が1位になっています。基本的な生活習慣の育成に心を配る親が増えているようです。

子どもに関する悩み

悩みの一番は「成績・進学のこと」

◆あなたは、現在お子さんについて困っていること、悩んでいることがありますか。



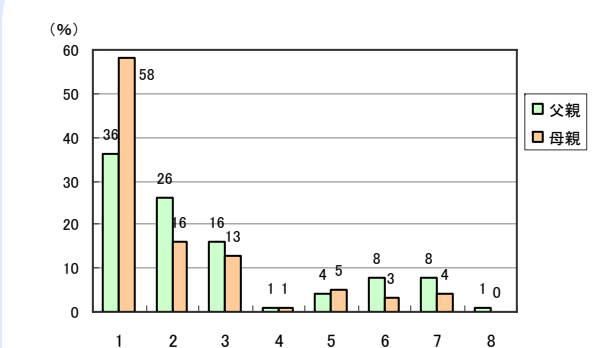
1 成績・進学のこと 2 体の成長のこと 3 家族への反抗・暴言など
4 学校に行きたがらない 5 友達つきあい 6 服装・髪型・言葉遣いなどがみだれている
7 生活がだらしない 8 やる気がない 9 その他

父母ともに一番多いのは「成績・進学」、次は「特になし」であり、その他の項目は全て1割未満です。経年で変化をみると、子どもの成績・進学で悩む親が増加傾向にあるとともに、子どもの友達つきあいに悩む母親が微増傾向にあります。

家庭の役割

1位は「休息・安らぎの場」「学習習慣」については1%

◆あなたが、子育てをするときの家庭の役割として重要と思われるものは何ですか。



1 休息・安らぎの場 2 家族の絆を強める場 3 生活習慣を身につけさせる場
4 学習習慣を身につけさせる場 5 健康管理をする場 6 モラルを教える場
7 将来の自立に向けた見通しを持たせる場 8 その他

前回(H14)同様、父母ともに1位は「休息・安らぎの場」であり、「家族の絆を深める場」、「生活習慣を身に付けさせる場」が続いています。「学習習慣」については1%であり、家庭の役割としての認識は薄いようです。